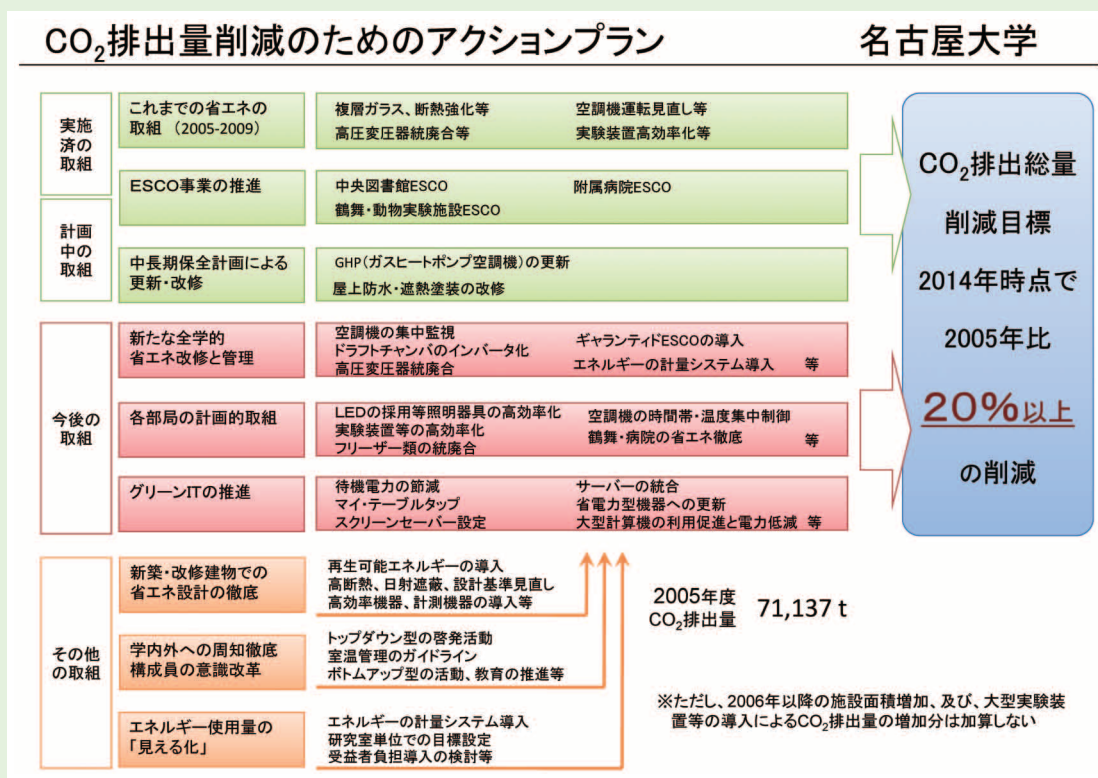


二酸化炭素排出量の削減計画

名古屋大学は、自らが環境に及ぼす影響を把握し、環境負荷削減のために、積極的に二酸化炭素排出の削減や省エネ活動等の地球環境保全対策に取り組んでいます。

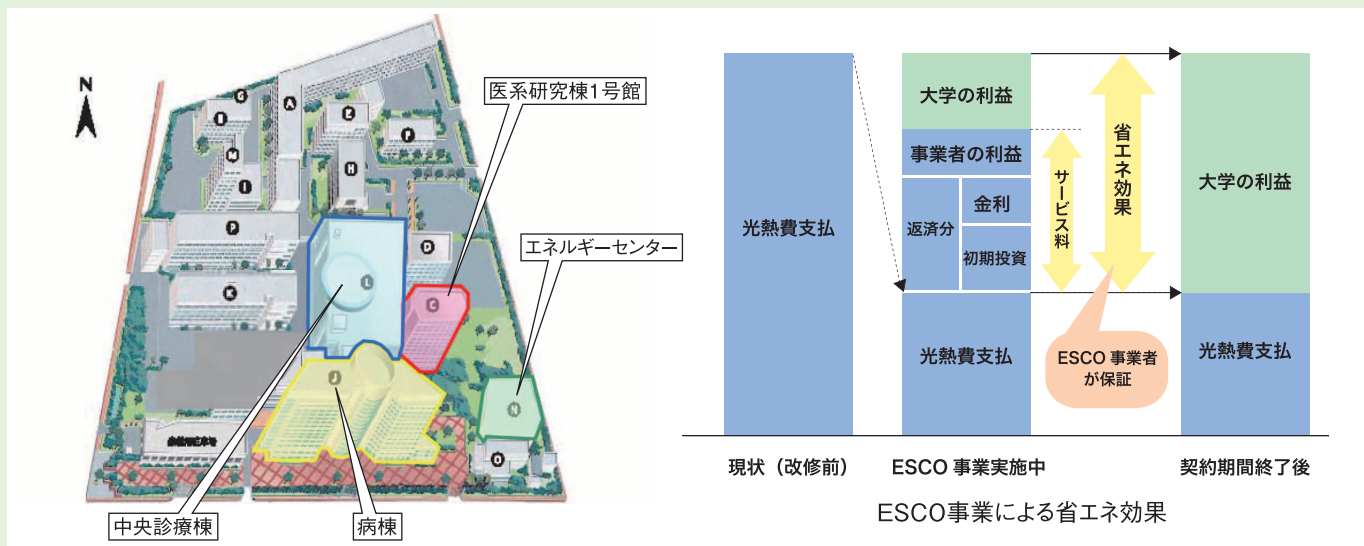
具体的には、2014年度における二酸化炭素排出量を、2005年度の二酸化炭素排出量71,137tより20%以上削減することを目指します。この目標実現のために、「CO₂排出量削減のためのアクションプラン」に掲げる各種施策を積極的に行います。



鶴舞キャンパスの取り組みについて

主に医学部と附属病院で構成される鶴舞キャンパスにおいては、2008年度からESCO事業による省エネ機器の導入など、環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。2009年度においても、病棟・中央診療棟・医系研究棟1号館・エネルギーセンターの熱源機器の更新をESCO事業として行いました。

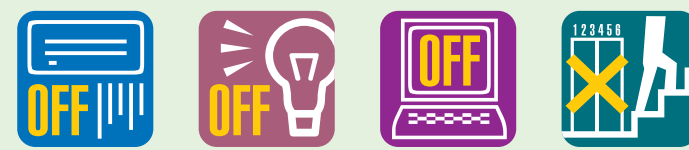
これにより、鶴舞キャンパス内において2007年度比で、省エネルギー率20.6%、CO₂削減量7,090t/年、CO₂削減率21.0%が見込まれています。



また、医学部学生の作業環境改善事例として、解剖学実習の際のホルムアルデヒド曝露を最小限にするために局所排気装置付き実験台を導入しました。これは直上の天井に送風口を設け、蒸散するホルムアルデヒドを実験台底部からパイプを通して排気するもので、実習者の方向に拡散するホルムアルデヒド量を効果的に減らすことができます。

今年度から、名古屋大学では二酸化炭素排出量の削減計画として「低炭素エコキャンパスの実現」に向けて、中期的なアクションプランを掲げて全学で積極的に取り組んでいます。このような大規模な計画以外にも、環境のためにわたしたちひとりひとりが今日からできる省エネ対策が、本冊でいくつも紹介されています。

- ・夏季(28℃以上)、冬季(19℃以下)の温度設定
- ・夏季一斉休暇への協力
- ・夏季契約電力超過時の電力抑制への協力
- ・温度計付き省エネステッカーの貼付と室温の見える化
- ・昼休みの消灯キャンペーンへの協力
- ・パソコン省エネ設定キャンペーンへの協力(設定すると30%以上の省エネ)



次に、紙ごみ類のリサイクルについてお話します。皆さまが捨てられた紙ごみ類(新聞、雑誌、コピー用紙等)は、リサイクル業者により再生紙或いはトイレットペーパーに再資源化され循環的に活用されています。これには、皆さまが指定された正しい分別で紙ごみ類を廃棄することが必須となります。このような、小さな行動の積み重ねを継続的に行うことが大きな省エネ・省資源になりますので、是非ご協力をお願いします。

ダイジェスト版「編集後記」

今年度の特筆すべき事項は10月に行われた環境方針の改定です。新しい環境方針は、「基本理念」と基本姿勢、環境マネジメント、環境パフォーマンス、社会的責任・環境コミュニケーションの四つの項目からなる「基本方針」から構成され、名古屋大学が教育研究活動を通して人類と自然の調和的発展への貢献と社会的役割を果たしていくための方針が整理されています。この新たな方針に基づき、従来の活動を評価し、自主的かつ継続的に改善を進めていくために、過去5年分の環境報告書の記事をまとめました。

約2年間に渡る環境方針の改定の作業で議論された事柄の一部は、既に環境報告書2010(本冊)の編集にも生かされています。併せて、環境報告書2010自己評価も実施し結果も公表しています。是非、名古屋大学ホームページに公表している本冊および自己評価報告書をご覧ください。これからも、「名古屋大学らしさ」がよく見えるような編集を心掛けていきたいと考えています。皆様からの忌憚なきご意見を頂きますようお願いします。

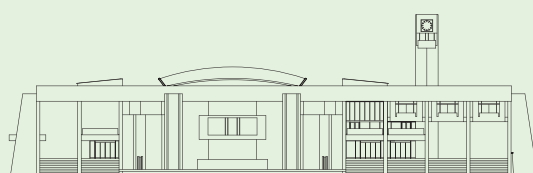
環境報告書の作成に関する検討ワーキンググループ主査 村田 静昭

名古屋大学に期待すること(自己評価を実施しての感想)

環境報告書の作成や評価は、貴重な「学びの機会」だということを、自己評価活動を通して実感しています。自分達の日々の活動が環境に与える影響を主体的に把握し、批判的に検討することで、環境意識が一層高まり、積極的な取り組みが促進されます。環境報告書の完成版を使った教育啓発はすでに行われているようですが、今後、名古屋大学の学生や教職員が何らかの形で、環境報告書の作成や評価に参加する機会が増えていくことを、期待しています。

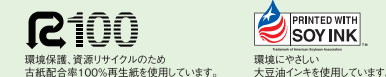
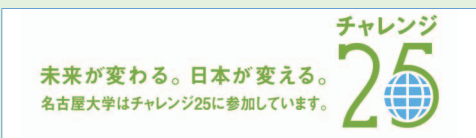
環境学研究所 准教授 野村 康

本冊の環境報告書は、名古屋大学ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。
環境報告書HPアドレス <http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/rpt.html>



問い合わせ先

名古屋大学施設管理部施設管理課
〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
TEL:052-789-2137 FAX:052-789-2150
E-mail:sis-sou@post.jimu.nagoya-u.ac.jp



NAGOYA UNIVERSITY

国立大学法人 名古屋大学

環境報告書

(ダイジェスト版)

2010



目次

総長のことば	2
環境方針	2
環境報告書2010トピックス	
二酸化炭素排出量の削減計画	3
鶴舞キャンパスの取り組みについて	3
環境報告書サマリー	
継続的改善のための最近の環境活動	4.5
環境のためにひとりひとりが今日からできること	6
ダイジェスト版「編集後記」	6
名古屋大学に期待すること(自己評価を実施しての感想)	6
問い合わせ先等	6

総長のことば



名古屋大学総長

濱口道成

人類と自然の調和的発展に向けて、名古屋大学の挑戦

名古屋大学は、人類と自然の調和的発展に向け環境方針を定め、様々な課題への挑戦を通して規範たるべく努力を続けています。2010年10月に開催予定の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)は、名古屋市を生物の多様性がもたらす環境問題に挑む最先端の都市へと導いてくれるものと思います。名古屋大学でも、昨年度以来COP10の支援を目指して様々な取り組みを行っています。また、昨年9月鳩山前首相が国連総会気候変動首脳会合で表明された2020年までに温室効果ガス排出量の25%削減を目指す国家の中期目標と関連して、名古屋大学は「名古屋大学キャンパスマスタープラン2010」において「低炭素エコキャンパスの実現」を目指し、2014年度における二酸化炭素排出量を2005年度に比べ20%以上削減する計画を発表し、本格的に取り組むを始めました。

これらの新たな挑戦的取り組みは、省エネルギーや環境負荷低減対策などの分野で多くの賞を受賞し効果を上げてきた既存の事業と相俟って、名古屋大学の進んでいく方向を全世界の人々に理解してもらうことに役立つものと信じています。このような私たちの姿を理解しご支援を頂けるようにと、2006年版以来毎年環境報告書を発表してきました。さらに、ここでの内容がより正確で分かりやすいものであるようにとの視点から、自己評価を行い結果も報告してきました。このような努力は、環境報告書2009が「環境報告書賞公共部門賞」を受賞したこと一つの実を結びました。また、エネルギー削減の実務を担当する事務局職員が「2009年度エネルギー功労者」として表彰されました。これらの功績は、環境問題への取り組みの一翼を担う教職員の水準が高いものであることを物語っています。ここに、4人のノーベル賞受賞者を名古屋大学関係者から輩出した実績などで裏打ちされた、最高峰の教育・研究水準にある教職員・学生の力を合わせることで、様々な難問に挑戦し世界の期待に沿った貢献を果たしうる大学として発展していくことを誓います。

2010年 9月

環境方針

名古屋大学は、その学術活動の基本理念を定めた「名古屋大学学術憲章」において、「自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」と記している。名古屋大学は、この学術憲章に基づき、文明の発達や現代人の行動が未来の世代に与える影響の重大さを認識し、想像力豊かな教育・研究活動による人類と自然の調和的発展への貢献と社会的役割を果たしていくために、次の基本理念と基本方針を定める。

1 基本理念

名古屋大学は、人類が築きあげてきた多様な文化や価値観を認め、次世代のために真に尊重すべきことは何かを考え、持続可能な社会の実現に貢献する。

2 基本方針

基本姿勢

(1) 名古屋大学は、環境問題の原因を究明し、これらに適切に対処していくため、すべての学術分野において、持続可能な発展を目指した教育と研究を進める。

環境マネジメント

(2) 名古屋大学は、環境マネジメントの継続的改善を図るため、大学のあるべき姿となすべき行動を関係者ととも考え、実践し、追求する。

環境パフォーマンス

(3) 名古屋大学は、自らの活動が環境に及ぼす影響や負荷を関係者ととも認識し、環境負荷の低減や未然防止に向けた総合的かつ体系的な課題解決に努める。

社会的責任・環境コミュニケーション

(4) 名古屋大学は、法令等の遵守、倫理の尊重、情報の公開、関係者とのコミュニケーションや相互理解を通して、地域社会や国際社会からの信頼を高める。

※環境報告書2010本冊子には、改訂前の環境方針が記載されています。

環境報告書サマリー【継続的改善のための最近の環境活動】

名古屋大学は、環境に配慮した取り組みを促進して全学を挙げて継続的に活動を続けています。それらの活動の概況について紹介します。

受賞の例を赤字で示しています。

緑=前年度より改善
赤=改善が必要

報告対象期間	環境管理全般	地球温暖化対策・省エネ対策	廃棄物対策	化学物質管理	市民・学生とのかかわり
2005年度 	 ●夏季一斉休暇の実施(2005年～)	●名古屋環境取引所と名古屋大学の連携協定締結(2005年11月) ◎温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算、2003年比) 東山地区⇒6.8%↑ 鶴舞地区⇒3.6%↑	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2005年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒2.4%↓ 鶴舞地区⇒9.0%↓	●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2005年6月) ●268研究室による約9万本の登録 ◎システム登録率⇒80%	●名大附属中学2年生による「愛・地球博」へのエコツアーの参加(2005年)
2006年度 	●環境安全衛生推進本部を新設し、廃棄物処理施設から環境安全衛生管理室への改組による管理体制の強化(2006年4月) ●環境報告書2006年度版(創刊号)を発行(2006年9月) 	●エネルギーマネジメント研究検討会の成果発表会～テーマ「名大発省エネ推進と地球温暖化防止」省エネルギー活動本格化(2007年3月) ◎温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算、2003年比) 東山地区⇒7.4%↓ 鶴舞地区⇒6.0%↓ 大幸地区⇒21.8%↓	●実験系廃棄物の適正な処理で「大学等環境安全協議会」より表彰(2007年6月) ●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2007年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒12.2%↑ 鶴舞地区⇒0.4%↓ 大幸地区⇒7.1%↑	●化学物質管理システムガイドライン制定(2006年6月) ●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2006年6月) ●300研究室による約10万本の登録 ◎システム登録率⇒88%	●「なごや環境大学」への協力 ●名古屋市内の放置自転車の有効活用を狙い名古屋市と学生の共催で「名チャリプロジェクト」の開始(2006年6月～) 
2007年度 	●環境報告書の自己評価を開始(2008年8月～9月) ●環境会計の報告開始(2007年9月) ●「名古屋市エコ事業所」の認定(2007年10月) ●H19年度省エネルギー優秀事例全国大会「経済産業大臣賞」受賞(2008年1月) ●2008年愛知県環境賞「優秀賞」受賞(2008年3月)	◎温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算、2006年比) 東山地区⇒増減無 鶴舞地区⇒10.7%↑ 大幸地区⇒0.9%↓	◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒9.5%↓ 鶴舞地区⇒1.9%↓ 大幸地区⇒3.3%↑	●「名古屋大学化学物質管理規程」制定(2008年4月) ●「不要薬品」の集中処理開始(2007年～2008年) ●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2007年6月) ●300研究室による約11万本の登録 ◎システム登録率⇒74%	●環境報告書による教育及び学生アンケート調査開始(2007年度から毎年実施) ●「環境問題への挑戦」講座を市民開放型授業として公開(2007年) ●「なごや環境大学」への協力
2008年度 	●2008年「名古屋市エコ事業所優秀賞」の受賞(2009年2月) 	●附属図書館とESCO事業者が省エネルギー実現のための包括的サービスを契約(2008年8月) ●「名大発ESCO」省エネルギー推進事業の開始(2008年7月～) ◎温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算、2006年比) 東山地区⇒11.0%↓ 鶴舞地区⇒1.0%↑ 大幸地区⇒8.8%↓	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2008年6月) ●名大生協のレジ袋有料化(2008年10月)  レジ袋有料化のお知らせ	●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2008年6月) ●330研究室による約12万本の登録 ●2008年度有機廃液回収作業風景(東山キャンパス)  ◎システム登録率⇒69%	●名古屋大学公開講座開催(2008年8月～10月) ●第四回「ホームカミングデイ」開催—同窓生、学生の家族及び近隣住民約5,000名参加 
2009年度 	●CO ₂ 排出量削減のためのアクションプラン(2014年時点で2005年度比20%削減) ●2009年度「エネルギー管理功績者 中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰」受賞 ●「環境報告書賞 公共部門賞」受賞(東洋経済新報社、グリーンリポーターズフォーラム主催)	●鶴舞キャンパスにおけるESCO事業の実施 ●省エネパトロールの実施 ◎温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算、2006年比) 東山地区⇒14.1%↓ 鶴舞地区⇒2.8%↑ 大幸地区⇒8.8%↓	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2009年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒19.8%↓ 鶴舞地区⇒2.0%↑ 大幸地区⇒14.0%↑	●化学物質管理システム(MaCS-NU)の強化 ●大学内全吹付けアスベスト処置の完了(2010年3月) ●鶴舞キャンパスの作業環境改善に着手 ◎システム登録率⇒63%	●「ECO LABO」プロジェクト(名チャリプロジェクト2009) ●小型家電回収実験の実施 ●大幸キャンパスクリーン(2009年6月) ●騒音対策(防音パネルの設置)を実施

名古屋大学における本格的な省エネルギー活動を開始(2004年～)主な活動

- 名古屋大学の主な活動(建築設備関連の省エネルギー対策は右記※)
 ①各キャンパス毎の毎月のエネルギー使用量・省エネ対策のホームページ公開(2004年～)
 ②夏季及び冬季省エネルギーキャンペーン及び昼休み消灯キャンペーン実施(2004年～)
 ③東山キャンパスにおける夏季の契約電力超過予測時の電力抑止メール発信(2004年～)
 ④省エネチェックシートによる省エネ活動状況調査と公開(2005年～)
 ⑤省エネ推進担当者の選任による体制整備(2005年～)
 ⑥夏季一斉休暇(8月平日2日間)によるエネルギー消費削減開始(2005年～)
 ⑦省エネパトロールの実施(2009年～)

- ※ 各種建築設備関連省エネルギー対策(2009年度実績)
 ①屋上緑化工事(2009年度2,544㎡、2001年度～2009年度総計7,667㎡実施)
 ②高断熱型複層ガラスの使用実績(2009年度3,200㎡、2003年度～2009年度総計13,770㎡実施)
 ③高効率型変圧器の採用実績(東山キャンパス44.8%、鶴舞キャンパス44.9%、大幸キャンパス100%)
 ④外壁断熱工事、遮熱シート防水、遮熱塗装等建築関連対策実施
 ⑤照明装置(高効率タイプのインバータ型方式採用)、空調設備(高効率タイプのインバータ組込、人感センサーの採用、省エネルギー効果のあるサーキュレータ採用)、冷却水設備(インバータポンプによる循環方式の採用)等対策実施